

国語科 学習指導案

豊能擁立光風台小学校

1. 日時 令和5年11月2日(木)第2時限 9:40~10:25

2. 場所 第4学年1組教室

3. 学年・組 第4学年1組(31名)

4. 単元名 要約してリーフレットで紹介しよう!

教材名 「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」

5. 単元の目標

◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

(思B(1)ウ)

◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思C(1)ウ)

○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知(3)オ)

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。(学びに向かう力、人間性等)

6. 本単元で取り組む言語活動

調べたことをもとにリーフレットを作成する。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。 (知(3)オ)	・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (思B(1)ウ) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 (思C(1)ウ)	・進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫したりしようとし、学習の見通しをもって、調べて分かったことなどを粘り強く書こうとしている。

8. 指導にあたって

(1)児童観

本学級の児童は、これまでに教材文「すがたをかえる大豆」と「アップとルーズで伝える」の説明的文章の学習をしている。そこで、話題と事例の書かれ方を捉えながら読んだり、文章構成や段落同士の関係を確認、筆者の考えを捉えながら読んだりする学習をしてきた。

本単元の学習においては、これまで都道府県の学習から、信楽焼や江戸切子など、全国に存在する伝統工芸品に興味を示しており、「リーフレットを作って友だちに紹介する」というゴールに向けて、意欲的に取り組むことができるのではないかと考えている。

(2)教材観

本教材は、「世界にほこる和紙」(読む活動)と「伝統工芸のよさを伝えよう」(書く活動)が合わさった複合単元である。「世界にほこる和紙」では本文を読んで、筆者の説明の仕方を捉えたり要約したりする活動を行う。「世界にほこる和紙」では、構成が捉えやすく、考えと理由の関係を捉えたり、中心となる語や文を見つけたりする学習に適しているため、書くのが苦手な児童でも比較的要約しやすい教材となっている。

「伝統工芸のよさを伝えよう」では、資料などを活用して調べたことをまとめ、リーフレットに書く活動を行う。リーフレットについては、「パンフレットを読もう」の単元で、概要について説明をしているため、イメージがしやすく取り組みやすい。しかし、伝統工芸というのは児童の身近にあるものではないので、目的意識をもって意欲的に取り組むことが難しいと考えた。そこで、学習のゴールを「伝統工芸のよさをリーフレットで伝えよう」と設定し、児童自身が伝統工芸について分かりやすく伝える、という明確な目的をもって、要約したり必要な情報を読み取ったりすることができるようにしたい。また、本単元では、「伝統工芸のよさを伝える」という目的をもって、書く内容の中心を明確にして内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注目したりしながら、必要な言葉や文を見つけて要約をする力を育成していく。

(3)指導観

「世界にほこる和紙」では、文章の組み立てを捉え、中心となる語や文を確かめて読み、要約することに重点を置く。各段落の要点をワークシートのまとめさせることによって、児童が要約文を書くための手立てとしていきたい。第二次「伝統工芸のよさを伝えよう」では、調べたことをもとに、自分の考えをその理由や事例を挙げて分かりやすく書くことに重点を置いていきたい。そこで、児童が多くの情報の整理をしやすいうように、付箋などを活用する。「博多おり」をモデル文としながら、自分が選んだ伝統工芸品のよさを文章に書かせていきたい。

また、本単元では、特に以下の4点に留意して指導を展開する。① 伝統工芸のよさを的確に伝えることができるリーフレットを作成し、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約をする力を育成していく。伝統工芸について関心をもたせるために、紙すき体験をしたり、どんな伝統工芸品があるのか具体的に紹介したりする活動を取り入れる。教科横断型として、図画工作の時間に紙すき体験をし、作品を作り上げることを通して、和紙の魅力に気づき、文章の理解につなげていきたい。② 見通しをもって学習に臨むことができるよう、授業の最初に学習計画を児童と一緒に立て、教室内に掲示しておく。児童も同じ計画を書いたものを持ち、毎時間振り返りができるようにする。③ 中心となる語や文を見つける際には、文章全体の構成の学習を手がかりとしたり、何度も出てくる言葉を見つけたり、見つけた言葉や文をグループで紹介し合い精査したりする活動を取り入れ、スモールステップで要約をしていく。1学期に学習した「要約」について振り返ることができるよう、学びの足跡を作成し、教室に掲示しておく。④リーフレット作成においては、並行読書で読み進めている伝統工芸の「みりよく」についてまとめていく。ペアやグループでの話し合い活動も入れながら学習を進めていく。書くことが苦手な児童にとって、少しでも書くことへの抵抗感をなくすために、児童同士の作品の交流など、対話的な学習も取り入れながらリーフレットを作成していく。友達との交流を通して、言葉の使い方が適切であったかや、きちんと伝統工芸の「みりよく」が伝わるか等アドバイスし合うことで、論理的思考力の育成を図っていきたい。

9. 単元の指導と評価の計画

次	時	学習内容	評価観点			評価規準・評価方法
			知	思	主	
第一次	1	○伝統工芸について関心をもつ。 ○単元の学習のめあてを確認し、学習の計画を立てる。			○	【態】 ・伝える相手を明確にすることで、目的を意識したリーフレット作りになるようにする。(観察)
第二次	2 3 4	○「世界にほこる和紙」を読み、おおまかな内容を捉える。		○	○	【思】 ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や

	5	<ul style="list-style-type: none"> ○段落を確かめ、文章全体の構成を捉える。 ○全文を音読し、段落を確かめ、文章全体を「初め」「中」「終わり」に分ける。 ○「中」に注目して、2つの理由を読み取る。 ○「中」でどのような例が何を説明するために述べられているのかを読み取る。 ○まとまりごとに中心となる語や分を捉え、「世界にほこる和紙」を要約する。 			<p>事例との関係などについて、叙述をもとに捉えている。(ノートの記述)</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、複数の本を読んだりしようとしている。
第三次	6 7 8 9 10 11 12 <u>(本時)</u> 13	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る学習の見通しをもつ。 ○紹介したい伝統工芸を決めて、情報を整理する。 ○伝統工芸に関する本について、よさが書かれていると思うところを中心に線を引く。 ○<u>組み立てを考え、下書きをする。</u> ○レイアウトを工夫し、リーフレットを作る。 	○	○	<p>【知】 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(観察・記述)</p> <p>【態】 進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、複数の本を読んだりしようとしている。(観察)</p>
	14 15	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と読み合い、感想を伝え合う。 ○リーフレットを紹介する。 ○単元の学習を振り返る。 		○	<p>【態】 学習の見通しをもって、伝統工芸をリーフレットで紹介している。</p>

10. 本時の展開(12/15)

(1)本時の目標

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

(2)本時の評価規準

「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。
【思考・判断・表現】

(3)展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 (5分)	1. 前時までの学習内容を想起させ、本時の学習内容・めあてを確認する。	○単元のゴールの確認 ○単元の学習計画表を基にして、前時及び本時の学習内容の確認 ・整理した情報の確認 ・伝統工芸品のよさの書き方 ○本時のめあての確認	
調べたことを整理して、伝とう工芸品のよさを伝える文章を書こう。			
展開① (20分)	2. 整理した情報を基に、伝統工芸品のよさを書く。	○伝えたいことに説得力を持たせるために理由や事例を挙げ、伝えたいこととの関係をはっきりさせる。 ○つなぎ言葉を効果的に使えるよう指導する。 理由…だから、そのため、なぜなら 事例…例えば、つまり	
展開② (15分)	3. 書いた文章を、同じグループで読み合う。	○書いた文章を友だちと読み合い、気づきを交流させる。誤字・脱字だけでなく、よさを伝える理由や例がまとまりごとに書けているかどうかを確認させる。 ○一つ目の文章が書けた児童には、ミニ先生として、書くことが難しい児童の手助けをする。	
まとめ (5分)	3. 本時の振り返りをする。	○本時のめあてに沿ったふりかえりをするよう助言するとともに、具体的に何がどのように分かったのか、また、次の学習にどう生かしていきたいかなど、ルーブリックを基準としてふりかえりを書くよう指導する。	◆根拠となる理由や事例を明確にして伝統工芸品のよさを書くことができる。

1 1. 板書計画

十一月二日(木)

伝統工芸のよさを伝えよう

④調べたことを整理して、伝とう工芸品のよさを伝える文章を書こう。

その一つは、「
」です。」
（は、

伝とう工芸品の詳しいみりよくや
とくちようを書く。

また、「
」もみりよくの一つです。
（は、

△ふりかえり▽

- ・ 伝統工芸品のよさが伝わる文章を書くことができた。
- ・ 集中して文章を書くことができた。

<本時のルーブリック評価>

◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思B(1)ウ)

①「中」に、選んだ伝統工芸のみりよくを2つ以上の段落にわけて書くことができた。	②つなぎ言葉を使って、理由や事例を挙げて、文章を書くことができた。	③文章のおかしなところやまちがっているところがない。	④伝統工芸のよさが伝わるように、最後までねばり強く文章を書くことができた。
---	-----------------------------------	----------------------------	---------------------------------------